

(財)大和市スポーツ・よか・みどり財団の主な芸術文化事業について

1 市民参加型事業

①「大和薪能」(平成元年度～平成16年度)

- ・ 第1回・第2回は引地台公園、第3回からは泉の森を会場として開催
平成元年度～平成12年度は、毎年開催、その後、平成16年度まで隔年開催、
それ以降は未開催(5年ごとに開催を予定)
 - ・ 実行委員会及びボランティア
市内在住の人を公募によりメンバーを構成
第10回から実行委員会、ボランティアスタッフを組織、前身は、「大和能を楽
しむ会」
 - ・ 演者に市内の小学生(8名)を起用
中央林間の六瓢(能舞台)で稽古(平成14年度)、演目は「鞍馬天狗」
 - ・ 火入れの儀
市民公募(衣装及び着付けは主催者側で対応)
 - ・ 他団体の協力
上草柳地区社協、青年会議所、大和茶道協会、大和警察署
その他協賛団体多数(協賛金は約100万円)
 - ・ ワークショップの開催
能の楽しみ方、演目の見所を解説
- ※ 第11回(平成11年10月17日) 本市の独自の夢幻能「鶴汀」を実施

②「演劇やまと塾」(平成17年度～18年度の2箇年継続事業)

- 市民劇団養成プロジェクト「大和爛漫」～和子の四季・桜の樹の下で～
(平成19年8月19日 生涯学習センターホールで開催)
- ・ 大和を舞台としたオリジナル演劇
大和市出身の劇作家・横内謙介氏が率いる劇団扉座の演劇指導
 - ・ 実行委員会
市内の演劇関係者やマスコミ関係者などで構成
 - ・ 市民劇団の育成
小学校5年生以上を公募、29人で構成 (塾生は10歳から69歳まで)
稽古40回(演技、アクション、ダンス)
 - ・ 自主活動
大和塾のメンバー(14人)と新しいメンバー(1人)が加わり再結成、現在も活動
- ※ 文化庁「文化芸術による創造のまち支援事業」の助成金850万円を含め、
総事業費は約1,300万円

- ③ 「大和軽音楽祭」(平成17年度・18年度)
- ・ 実行委員会
 - 大和市内の高校生で構成(主に軽音楽部)音響・照明などの専門作業を除き、企画から当日の進行まで全てを実行委員会が担当
 - ※ 前身に平成8年度に「高校生バンド大会 LETS」を開催
 - ※ 大会後、プロとしてデビューしたグループもあり
- ③ その他
- ・ フィールド・ファンタジー(泉の森を舞台にした寸劇) 実行委員会形式(25名)

2 主な芸術文化鑑賞事業(ホール事業)

○ 事業の種類

- ① 「やまと寄席」(平成11年度～今年で第10回)
落語と色物で寄席風に構成
- ② 「大和文芸映画祭」(平成17年度～今年で第3回)
講演会+映画鑑賞会 文化庁からの優秀映画推進事業
- ③ 「音楽コンサート」
クラシック、オペラ、ジャズ、和太鼓など
- ④ 各種講演会・フォーラム

○ ホール事業大和市内外の参加者比率(19年度)

- ① 「やまと寄席」(保健福祉センターホール) 市内54% 市外46%
- ② 「大和文芸映画祭」(生涯学習センターホール) 市内87% 市外22%
- ③ 「音楽コンサート」(保健福祉センターホール) 市内54% 市外46%

※ 本市の場合、オペラ、クラシックなどの洋風のジャンルについては、集客力が弱い傾向となっている。その原因としては、開催場所が音楽を聴かせるための専門ホールでないこと、又これらのジャンルについては市民の皆さんにまだ浸透していないことが考えられる。過去に開催した和太鼓、能、狂言などの日本伝統文化の公演については、比較的集客力があり、関心度が高い結果となっている。

○ ホール利用者の意見や要望(19年度のアンケートより抜粋)

- ・ 床のガタガタしない音響の良いホールが市内にあると良い。(保健福祉センターホールは移動式の座席のため、公演中の出入りの際に床の音が気になる。)
- ・ ホールの音響が良くない。(反響板の影響)
- ・ ホールの椅子のすわり心地が悪い。(老朽化)
- ・ 会場外の音(雑音)が客席まで聞こえる。
- ・ ピアノの音が割れて聞こえた。(ピアノのメンテナンスの必要性)
- ・ 知名度のある出演者を希望したい。
- ・ 堅苦しいコンサートより、楽しめるコンサートを希望する。
- ・ 駐車スペースが十分でない。第二駐車場は遠すぎる。(生涯学習センター)